



橋本 米子(はしもとよねこ)議員

一括質問

新型コロナウイルス禍の下、市民生活に 寄り添う市政を

Q 新型コロナウイルス感染症経済対策として、1人当たり1万円の市独自の助成金支給や飲食業等賃料補助の再開を求めたい。

A 現在「Go Around」まで「part2」の準備を進めている。3月以降の市独自の賃料等支援について、至急検討していきたい。

◆小松市介護保険事業計画について

Q 第8期介護保険事業計画の重点政策等をどう考えているか。

A 位置情報提供サービスの活用等、高齢者とその家族に寄り添うやさしいまちづくりを目指す。

Q 要介護認定者の障害者控除対象者認定制度の周知方法の改善について。

A HP・広報の他、介護認定の結果通知の際に制度の案内を同封し、周知徹底を図っている。

Q 保険料滞納者の推移と過大な延滞金について問う。

A 平成27年度で565人、未納率1・08%。令和元年度で369人、0・64%。延滞金は国の特例基準割合を使用して算出。

◆後期高齢者医療制度について

Q 後期高齢者医療制度発足の目的をどう考えているのか。

A 国の医療制度改革の一つ。世代間を通じた負担が明確で公平な制度として平成20年度より開始された。

Q 今回の均等割軽減特例の見直しによって、保険料がどう変わるのか。

A 所得の低い方の均等割の軽減特例は、令和元年度から8・5割、令和2年度では7・75割軽減と段階的に見直されており、令和3年度以降では7割軽減となる。

Q 滞納者の現状と資格証明書の発行について。

A 令和3年1月末現在の保険料滞納者は165人で全体の1・02%。資格証明書は発行していない。



コロナ禍で冷え込んだ栗津温泉街



宮西 健吉(みやにしけんきち)議員

一問一答

会計年度任用職員について

◆犬丸保育所民営化について

Q 民営化の経緯、現在の運営状況は。

A 平成28年に民間導入を推進することとし、平成30年に事業者を募集、移管先を決定し、平成31年4月から運営を開始している。現在定員90名のところ79名が入所し、平成23年は90名だったがここ3年は横ばいである。

Q 移管後の運営等に関する条件は。

A 早い時期で建て替えを検討すること、場所や名前を変更する場合、地域や保護者会との同意を得ることである。

Q 平成30年10月、校下町内会・保護者会・社会福祉法人・市との同意書があり、市は必要な指導をするところだが、指導しているか。

A 法人へは地域や保護者会との合意のため、話し合い等が前提となることを伝えている。

◆会計年度任用職員について

Q 会計年度任用職員制度の概要について。

A 令和2年4月の法改正により、一般職との処遇や勤務条件等の均等化が図られ、サービスの規定や手

当の支給については一般職に準じて適用される。

Q 本市の状況と正規職員との割合は。

A 週29時間以上勤務の方が428人(内フルタイム197人)で病院など施設関係の雇用が多い。令和2年4月1日現在、正規職員1,124名、会計年度任用職員428名である。

Q 市の顔である市民サービス課で会計年度任用職員が対応することに本市の見解は。

A 業務マニュアルの整備や職場で研修を行うなど全体でスキルアップを図り、市民にやさしい窓口を目指したい。

Q 職員の休職状況とその原因は。

A 毎年10人前後が休職しており、理由は様々だが、心の問題は専門医による電話相談や研修等を行い健康管理に取り組んでいる。

Q 人材を育てる指導は。

A 様々な研修や専門職制度などそれぞれが力を発揮出来る体制をとっており、引き続き職員の育成に努めたい。



吉本 慎太郎（よしもと しんたろう）議員

一問一答

住みよい街『小松』定住支援 制度のさらなる充実を！

Q 「市外からの転入者への居住支援」「3世代家族への居住支援」「まちなかへの継続的な居住支援」等、これまでの定住支援制度の実績は。

A 市外からの転入者支援としての「ようこそ小松」では累計897件、「3世代家族」では488件で、これにより3,118名が転入している。

Q 更なる制度利用の拡大のためにも住戸面積条件の緩和を。

A 現在の基準は国の水準を基にしており、今後これらが変更されれば、考えていきたい。

Q 定住促進策としての「空き家」の有効活用推進に重点を。

A 令和3年度に空き家調査を予定しており、空き家バンク制度の周知と空き家利活用の意向調査も併せて実施し有効活用を進めたい。

Q 現在の社会情勢は、人口分布を是正する好機である。住みよきラッキン全国8位をPRし、定住支援策の充実を。

A コロナ禍における働き方の変革から地方移住が話題となり、二地域居住の支援制度を創設した。

今後は移住者の声や情報などを全国的な情報誌やSNS等を活用して発信し、更なるイメージアップを図っていききたい。

◆「2024」新幹線開業に向けて

Q 開業が1年延期されることにより駅舎・駅ナカ（高架下プロムナード）の供用との間にタイムラグが生じる。その1年を好機とし「市民が集う小松駅」になるべく機能の充実を図るべき。

A 空港との間の自動運転バス導入や、駅ナカのライブラリーとラウンジの供用により市民がもっと楽しめる場所になるよう、様々な方々と共創で進めていきたい。



各都道府県を人口比で表現した日本地図



表 靖二（おもてやすじ）議員

一問一答

便利で楽しく人の集まる 栗津駅に向けた検討を！

◆財政について

Q 和田市政12年間で約240数億円、実質350億円余の市債を圧縮している。裁量的支出が可能な財源規模について、どのように考えるか。

A 様々な捉え方があり、具体的金額は難しい。国等補助金・民間資金・ふるさと納税の活用等、歳入面での取組と行政改革等により、財政需要に対応出来る健全で柔軟な財政を高めていく。

◆公立小松大学について

Q 大学開学後のJ-R小松駅周辺の人出の推移について。

A 小松駅周辺の1日当たりの歩行者数は2倍以上増加している。

Q 学生の就職対策、将来の企業誘致は。

A 産学連携による共同研究、地域社会の課題解決や新産業、新製品開発に結びつく研究等により、人づくりに励んでいる。企業に有利な人材を供給し、研究に取り組める魅力的な場所であると認識されるよう努めていく。

◆栗津駅の整備について

Q 今後のスケジュールは。

A 2026年春に東西連絡道路を完成予定。I-Rいしかわ移行後も引き続きお願いをしている。道路の拡幅、東西連絡道路の用地、ロータリーについては現在、交渉中である。

Q 近隣の南支所や郵便局を駅の中に入れることも念慮をいただき、便利で楽しく、人の集まる駅に向けた検討をお願いしたいが、今後の政策展開については。

A 今年度は地質調査と基本的なデザイン等を最終決定予定。骨格予算なので、6月に上程となる。是非、地元でも東西の地区住民

による地域協議会、栗津駅をどう活用していくかを研究、御提言願いたい。



整備に向けた調整が進む栗津駅



木下 裕介(きのした ひろゆき) 議員

一問一答

子供の未来を守る養育費の確保に向け積極的な支援を！

◆コロナ禍で影響を受けるひとり親家庭への支援について

Q 2016年の厚生労働省の調査結果によると、母子世帯の71.4%が「養育費を受け取っていない」と回答した。本市の状況は、

A 今年1月末現在、児童扶養手当受給者618件のうち、養育費を受け取っているのは174件で約3割と、国と同様な状況である。

Q 養育費の相談があった場合の体制は。

A 窓口で国のパンフレットを基に説明するほか、市民無料相談や養育費相談を案内し、専門的な支援につなげている。

Q 今年度、改正民事執行法が施行され、未払いの相手方から養育費が受け取りやすくなった。しかし、あくまでも公正証書など公的文書で養育費の取り決めた人に限られおり、作成には多くの費用がかかる。そこで公正証書作成にかかる費用の補助を求めるが、見解は。

A 養育費の支払いが増え、ひとり親支援に効果があれば、検討していきたい。

◆新型コロナワクチン接種と差別について

Q 集団接種会場における副反応への対応は。

A 接種会場には医師2名、看護師4名、薬剤師2名がおり、すぐに治療、対応出来る準備を進めている。その上で、本人がアレルギーの有無や治療中の病気について把握しておくことが大切である。

Q ワクチンの廃棄を防ぐ取組は。

A 端数が発生しないよう予約枠を設定するなど体制を整えていく。

Q この1年を振り返れば、感染者や県外ナンバーの車所有者が差別を受けてきた。今後、ワクチン接種が進む中で、接種の有無で社会的な差別を受けることがないよう対策を求めるが、見解は。

A まずは、多くの方が免疫を持つことで感染・重症化防止に効果があることなど、情報の提供をしっかりと行い、ワクチンを接種して頂けるよう啓発していくことが第一と考えている。

議会中継 録画配信中

小松市議会ホームページでは、過去の本会議の録画映像を配信しています。

パソコンでの視聴に加えて、スマートフォン、タブレット端末からもご覧いただけます。ぜひご利用ください。



パソコンの場合はこちらから。

市議会を傍聴してみませんか

本会議や常任委員会はどなたでも傍聴できます。本会議を傍聴される場合は、傍聴者席(低層棟4階)へお越し下さい。定員は椅子席80人、車椅子席2人です。傍聴の受け付けの際に、整理番号札をお受け取り下さい。

※現在は新型コロナウイルス感染症対策として定員を半減し、検温、マスク着用をお願いしています。ご理解・ご協力をお願い致します。

委員会を傍聴される場合は、議会事務局(低層棟3階)へお越し下さい。定員は各5名です。

◆詳細につきましては、議会事務局(電話0761-24-8138)へお問い合わせ下さい。

予算決算常任委員会総括質疑

予算決算常任委員会に付託された予算案について、2月26日に議場で総括質疑を行いました。

各会派や無会派の委員が行った総括質疑の内容を報告します。

◆会派自民◆



灰田昌典 委員

◆小・中学校校舎改修費

Q 矢田野小学校大規模改修の内容と、中学校校舎改修費の内訳は。

A 小学校は屋上防水、照明のLED化等を計画。中学校は、安宅中が空調復旧、国府中は外壁塗装などの工事である。

Q 一定期間経過した小中学校校舎の改築(建替え)の判断基準は。

A 国の基準に基づき、耐震改修後20年以上経過した学校について修繕実績等の実情に基づき計画的に工事を実施している。

Q 老朽化が進む町なかの伝統ある稚松小学校と市内最大の生徒数を誇る松陽中学校の改築についての考えは。早急に対応を。

A 新しい時代の学びの環境整備の考え方を基本に調査を進め、効

果的な教育環境の実現に向け検討したい。

Q 両校の改築は検討する段階だと思われるが、市長のスピード感を持った英断を期待する。

A 国において35人学級への方針転換があれば増築・改築はした方が良いと思っている。

Q GIGAスクール等、新しい時代に対応した教育環境の整備は。タブレット端末を用いた様々な情報収集や学びの実現等の機能を活用し、学びの質を高めていく。



宮川吉男 委員

◆安宅新地区土地区画整理費

Q 令和3年度の事業内容と完成までのスケジュールは。

A 都市計画道路の4車線化や仮換地設計、国際線第2駐車場の移設等で、完成区画の測量や登記手続き等、全ての完了は令和6年春を予定。

Q この事業ではどのような土地活用を目指しているか。

A 空路・陸路のアクセスを活かし将来的な構想として、産業のみならずスポーツ等、様々な業種が総合的に集積する北陸屈指のNEW臨空ゾーンにしていきたい。

Q 空港周辺の将来構想はどのような考えか。

A 空路・鉄路・道路が繋がった広域交通ネットワークにより「国際都市こまつ」の北陸のゲートウェイとして、世界各国や首都圏等が身近になる。

Q 小松駅と空港の2大拠点はどう結び付け活かしていくのか。

A 令和5年春までに自動運転バスの実証実験を開始予定。Aやデジタルに対応した技術を駅や空港に導入し、高いアクセス力が活きるまちとなる。



新田寛之 委員

◆「Go Aroundこまつ Part 2」消費喚起促進費

Q 前回は、表紙のデザインが金券と紛らわしかったという意見や、換金方法についての要望があったと聞いている。どのように改善したか。

A 前回の反省点からチケットの表紙と中身の額面を分かりやすく区別する。換金の回数なども要望に応じ柔軟に対応したい。

Q 県のGoToEatのように換金機能をつけるべきだが対応は。

A 前回はHP上に対象店舗のPDF掲載のみであったが、今後はさらに分かり易くなるよう検討していきたい。

Q 購入用ハガキは交換ではなく、Part3を見据えてスタンプ方式にしてはどうか。

A どうすれば効率よく利用いたいただけるか、様々に検討したい。

Q 紙券とキャッシュを両立して進めるべきと考えるが対応は。

A キャッシュレス化の普及は効率化や感染症防止対策など有効であり今後、このような事業があるならば検討していきたいが、今回のPart2では、事業者のアンケート結果などから、前回同様、紙での実施したい。

